



三島工場の一角にそびえる集合煙突  
高さ207mのエリエールタワー

製造された幅約1.6mの新聞巻き取り紙の大きさに驚(おどろ)く子どもたち



新聞用紙を製造する全長約100m、高さ約9mの巨大な抄紙機



新聞用紙の原料となる  
古紙パルプに興味津々



次々とティッシュペーパーが製造される工程に  
見入る参加者

るるろとした感触に、新聞が元は古ペーパーなどの家庭紙を製造する川ぎ、スポンジなどで水分を絞って新しい新聞紙から作られていることを実感した。

場内にはパルプ製造マシン、紙を搬送する機械化された工程を見学したり、世界各国で販売しているトイレペーパーのサンプルを触ったりして比較。担当者から中国はティッシュペーパーやティッシュ

## 大王製紙

## 新聞用紙などの製造工程を見学



新聞用紙や家庭紙を製造する大王製紙の三島工場(愛媛県四国中央市)、川之江工場(同)を巡る「子ども記者バスツアー」(新日本海新聞社主催)が7月27日、行われた。鳥取県内の小学生と保護者30人が参加し、同社独自のリサイクル技術を用いて紙製品を作る工程を見学。児童は「記者」として工場関係者の話をノートに書き取り、幅約1.6m、重さ約1.3tの巨大な新聞巻き取り紙が作られる様子をカメラで撮影するなど熱心に取材した。

# 巨大な紙製作に驚き

## リサイクル技術実感

三島工場は1万1千種以上の紙製高約9mの設備で、幅約8mの紙を1分間に1250m作り出す。子どもたちはその大きさと速さを目の肥えた目で見て、驚きと感動を味わった。

紙工場。新聞用紙は古紙を溶かし、輝かせ、完成品を前に、普段目にする新聞がさまざまな工程を経て作られることに感動していた。

隣接する四国本社内では、親子で手すきによるはがき作りに挑戦。水に溶かしたパルプを型枠に慎重に注



大王製紙三島工場 愛媛県四国中央市に位置。敷地面積約167万平方mの臨海工場で、工場内に140万世帯を賄える自家発電や浄水施設、古紙倉庫がある。港に隣接しており、国内外から船で運ばれたチップが工場内に運搬しやすい構造。年間200万tの紙・板紙を生産する能力がある。日本海新聞の用紙の一部を生産している。



世界各国に販売されているトイレペーパーのサンプルを触って比較



手すきではがき作りに挑戦

### 子ども記者の感想



来見田 将悟さん(9)  
鳥取大付属小4年

#### 苦労があること知れた

心に残ったことは、高さ207mのエリエールタワーです。上る前は、山の中のように寒いかと思っていましたが、暑かったので工場の方に理由を聞くと、煙突だからだと教わりました。工場内は暑い所がいっぱいあるそうで工場の方は大変だと思いました。新聞ができるまでに、苦労があることを知りました。



岩永 絆那さん(12)  
美保南小6年

#### 新聞作るの難しそう

大王製紙の会社内で新聞用紙の製造工程の動画を見た時、新聞を作るのは難しそうだと感じました。工場見学では大きな機械が多く、音もすごく大きくて、結構きつい臭いがしてびっくりしました。はがき作りは和紙を作っているような感覚で楽しかったです。また機会があれば行きたいです。



三浅 智就さん(10)  
郡家西小4年

#### 環境考えていてすごい

大王製紙がリサイクルや環境のことを考えていると知ってすごいと思いました。特に電気を自分たちで発電させて使っていたり、古紙をリサイクルして新聞紙や段ボールの紙に再利用していたりすることに驚きました。いつか新聞を印刷する工場も見学したいです。あと記者の仕事は難しいと思いました。



高野 紫さん(10)  
浜坂小5年

#### 古紙から新聞びっくり

新聞用紙が古紙からできていることにびっくりしました。工場の中は大きな機械がいっぱいで動いている人がほとんどいなくて、機械だけの力ですごい速さで紙が出来上がっていました。製造された新聞用紙も見たことのない大きさに驚きました。紙ができるまでについていろいろ分かった楽しい見学でした。



岸本 琴音さん(11)  
岩美南小6年

#### 大きな工場を少人数で

一番印象に残ったことは、大きな工場なのにあまり人がいなかったことです。ほとんどの工程を機械が行い、働く人は機械の動きを指示する役目と聞き、びっくりしました。読み終わった新聞から新しい新聞が作られることを知り、環境に優しいなと思いました。再利用されることを意識して古紙回収に取り組みたいです。